
大腸がん検診

大腸がん検診（便潜血反応検査）の実施成績

東京都予防医学協会検査研究センター

2007年度の大腸がん検診の実施概況

東京都予防医学協会（以下「本会」）の大腸がん検診は、抗ヒトヘモグロビン・マウスモノクロナール抗体を利用した金コロイド凝集反応により、便中のヘモグロビンの有無を測定するIGオートHem法（免疫比色法）を用いた便潜血反応検査により行っている。採便回数は、検査委託団体、健康保険組合との契約により、1回法または2回法で行っている。

表1は、2007（平成19）年度の大腸がん検診の男女別、年齢別による総合判定結果を示した。

職域健診における総受診者数は、男性23,586人、女性11,927人の計35,513人であった。受診者数は男女ともに40～49歳が多く、次いで50～59歳が多かった。要精密検査対象者数は、男性、女性ともに50～59歳が最も多く、次いで40～49歳が多かった。

地域健診における総受診者数は、男性629人、女性1,160人の計1,789人であった。受診者数は男女ともに60～69歳が最も多く、次いで男性では40～49歳が女性では40～49歳と50～59歳が多かった。要精密検査対象者数は男性、女性ともに60～69歳が最も多

表1 大腸がん検診集計

(2007年度)

総合判定	男									女									総計
	不明	～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計	不明	～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計	
異常なし	1	487	3,789	7,558	6,510	3,080	519	59	22,003	1	390	2,207	3,910	3,184	1,161	272	35	11,160	33,163
要観察			1	10	25	14	2	1	53		1		1	3	2			7	60
要治療継続			3	6	6	4	3		22			2	1	1	1			5	27
要精密検査		25	165	393	459	300	49	11	1,402		36	127	196	205	83	27	3	677	2,079
要再検査		3	12	43	29	8			95		4	24	30	14	2			74	169
判定保留			4	1	1	5			11		4							4	15
合計	1	515	3,974	8,011	7,030	3,411	573	71	23,586	1	435	2,360	4,138	3,407	1,249	299	38	11,927	35,513
異常なし			41	130	116	148	104	18	557		2	77	250	254	289	113	14	999	1,556
要精密検査			4	9	12	26	16	5	72		1	14	31	30	50	27	7	160	232
判定保留													1					1	1
合計			45	139	128	174	120	23	629		3	91	282	284	339	140	21	1,160	1,789
異常なし		21	1,014	1,357	1,104	424	57	12	3,989		15	460	580	456	192	23	2	1,728	5,717
要観察				3	7	3	2		15					1		1		2	17
要治療継続				1		2	1		4										4
要精密検査		1	61	85	106	41	12	1	307		1	13	27	20	9	3	2	75	382
要再検査												9	4	1				14	14
合計		22	1,076	1,445	1,219	469	71	13	4,315		16	482	611	478	201	27	4	1,819	6,134
総計	1	537	5,095	9,595	8,377	4,054	764	107	28,530	1	454	2,933	5,031	4,169	1,789	466	63	14,906	43,436

要観察…腸疾患あり，主治医の支持に従って経過を観察してください。
 要治療継続…腸疾患あり，主治医の指示に従って治療を継続してください。
 要再検査…生理による影響など診断を確かめるため，再度検査を受けてください。

く、次いで男性では70～79歳が、女性では40～49歳と50～59歳が多かった。

人間ドック健診における総受診者数は、男性4,315人、女性1,819人の計6,134人であった。受診者数は職域健診同様、男女ともに40～49歳が多く、次いで男性では50～59歳が、女性では30～39歳が多かった。要精密検査対象者数は、男性では50～59歳が最も多く、次いで40～49歳が多かった。女性では40～49歳が最も多く、次いで50～59歳が多かった。

表2は、便潜血反応検査における年度別、陽性率および大腸がん発見数を示した。2003年度から2007年度の陽性率は4.9～6.5%、平均陽性率は5.9%であった。2007年度において、総受診者数43,436人のうち、陽性者数2,669人で陽性率6.1%であった。2005年度以降は6%台であり変化がみられなかった。

追跡率をみると5.8～7.1%と低く、がん発見数についてはあくまでも参考値として掲載した。

本会では、便潜血反応検査陽性者に、11施設の提携先医療機関を紹介し、精密検査の受診結果を受け取るシステムを導入しているが、紹介した医療機関とは別の施設で精密検査を受診するケースや、精密検査を必要とされたにもかかわらず受診しないケースなどもあり、精密検査結果の追跡が十分にできない現状である。

表3は、2003年度から2007年度までの5年間に本

表2 便潜血反応検査における年度別陽性率および大腸がん発見数

年 度	便 潜 血 反 応 検 査			結 果 報 告 書		
	実施人数	陽性数	陽性率 (%)	追跡可能数	追跡率 (%)	がん発見数
2003	41,284	2,423	5.9	172	7.1	8
2004	42,373	2,074	4.9	139	6.7	7
2005	42,832	2,768	6.5	182	6.6	3
2006	40,660	2,552	6.3	166	6.5	8
2007	43,436	2,669	6.1	154	5.8	5

注 追跡率：追跡可能数/陽性数×100

会より提携先医療機関へ紹介し、精密検査を受診した人の検査結果を診断結果別にまとめたものである。大腸がんを除いて大腸ポリープが最も多く、そのほかの診断結果では、次いで大腸憩室症、痔、大腸炎の順であった。またその他には、黒皮症、胃炎、粘膜出血、粘膜逸脱症、粘膜下膿腫、メラノーシスなどが報告されている。

大腸がん検診において共通する問題は精検受診率が低いこと、また精検結果が十分に把握されていないことである。今後は精検未受診者を少しでも減らし、精検受診率を高めるために要精検受診者に対し、大腸がん検診についてのくわしい情報を提供して受診勧奨を進めていきたい。また未把握部分に関しては、要精検受診者に検査結果表と一緒に追跡調査書を同封し、提携先以外の施設からもより多く情報を収集し、追跡率を高めるようなネットワークシステムを構築しているところである。

(文責 森 郁子)

表3 便潜血反応検査における陽性者の精密検査診断結果

年 度	性 別	精 密 検 査 の 診 断 結 果										計	
		大腸がん	大腸ポリープ	カルチノイド	大腸粘膜下腫瘍	肛門ポリープ	大腸憩室症	大腸炎	大腸憩室症+	痔	異常なし		その他不明
2003	男	6	75		1	1	5	5		3	35		131
	女	2	16						1	22			41
2004	男	6	42		2		6	2		4	36	2	100
	女	1	17					3		4	12	2	39
2005	男	2	76				9	4		10	36	1	138
	女	1	18	1				2		2	20		44
2006	男	7	67				3	4		2	42	2	127
	女	1	13					2		1	22		39
2007	男	5	57				8	2	1	3	34		110
	女		17				2	1		23	1		44
計		31	398	1	3	1	33	25	1	30	282	6	813